

福竜丸だより



都立・第五福竜丸展示館 ニュース

発行 (財) 第五福竜丸平和協会
連絡所 〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

大量殺戮兵器の実験

服部 学

今度のアフガニスタンへの報復攻撃にはわからないことがたくさんある。タリバンはカブール大学で、女性の教育を禁止してきたばかりでなく、科学そのものを否定してきたそうである。それは近代戦争を戦うことはできる筈はない。地上戦の大部分は国内の対立部族にやらせておいて、アメリカはB2等による空爆を連日繰り返していたが、テレビで見ると対空砲火ひとつなかったようである。そして兵士ばかりでなく多数の市民に死傷者が出ている。

化爆弾で、約七トンの化学物質の同時燃焼によって半径数百メートルもの地域の人達を窒息死させようとする化学兵器である。その効果は地上兵器では最大であり、戦術核兵器に次ぐものであるとされている。洞窟地域に対してはバンカー・バスター爆弾が使われている。これは岩盤に対する透過力の非常に強いものである。

私は生物学者ではないのでどうにも分からないのがアメリカ国内の炭素菌の使用である。一説によると一〇万人規模の殺人も可能な量が使われたのだそうである。誰が何のために使ったのか知らないが、大量殺戮の生物兵器が使われてしまったことだけは事実である。

たとえば親子爆弾とも呼ばれるクラスター爆弾が使われた。これは一発の親爆弾から約二〇〇発の連発性の子爆弾が散布される。コソボ戦争でも使われたが子爆弾の約七％が発弾されなかったと言われている。私は七％というのは最初から対人地雷と同じ殺傷効果を狙ったものだったと考えている。現にアフガニスタンでは地面に落ちていた不発の子爆弾に触れた子どもたちが犠牲になったことが確認されている。

ところで生物兵器禁止条約は一四四カ国が加盟して七五年に発行し、五年ごとに再検討会議が開催されている。折しも折り今年ジュネーブで開かれていた運用検討会議は一二月七日、最終宣言で合意できず、議長提案で一年延期された。アメリカが多国間の枠組による議定書交渉の終了を宣言に明記す

ることを要求して、各国が一斉に反発したためである。アメリカが受け入れ不可能な提案を土壇場になって提出した意図については「もともと多国間協議を葬り去るつもりだったのではないか」などの憶測をよんでいる(朝日新聞二月八日夕刊)との報道が伝えられている。いずれにしても、今度の報復攻撃でいろいろな大量殺戮兵器の実験的使用が行われ、誤爆も意外と多く、子どもたちを含むたくさんの方々の生命が奪われたことだけは事実である。考えてみれば私たちの第五福竜丸は水爆時代の最初の3F爆弾実験であった。まさに大量殺戮兵器の実験であった。そして久保山さんの尊い生命が奪われ、乗組員の方々が予想もしない被害を受け、またロンゲラップ島の住民の皆さんが今に続く影響をうけられたのだった。私は今回のアフガニスタン攻撃が各種の大量殺戮兵器の使用実験であったとしか考えられない。核兵器も化学兵器も生物兵器も、あらゆる種類の大量殺戮兵器を禁止しなければならぬ。それにしてもアフガニスタンの子どもたちはどうしてあんなに可愛い顔を失っているのだろうか。(立教大学名誉教授、第五福竜丸平和協会理事)

福竜丸のエンジンに薬品の塗布作業をおこなう

第五福竜丸のエンジンが展示、公開されて二年がたちますが、表面の状態の悪化がすみすみ三〇五ミリの厚さのサビが板状にはがれ落ちるようになってきました。そこでエンジンの設置にさいして保存の専門化として関わられた東京都文化財研究所の川野辺渉さん(修復材料研究室長)の助言と指導でエンジンの表面がはがれて落ちることを防ぐ薬品の塗布が一月二八日におこなわれました。



作業には、エンジンを東京夢の島への都民運動をすすめる、今は「第五福竜丸から平和を発信する連絡会」を構成する東京地婦連の秋元事務局長、東京原水協の柴田代表理事をはじめ平和協会の理事、ボランティアの会のメンバーが参加しました。

まず川野辺さんから薬品のタンニン酸をエタノールで五％に薄める手順を教わり、手分けをして刷毛で塗布しました。今後は、夏と冬の二回塗るほうがよいとのこと、来年以降の薬品塗布のやり方については、都の東部公園緑地事務所で検討されます。

参加者からは、エンジンをみんで見守っていくために、作業を有志でおこなうようにしてはどうかとの意見もだされています。

船体調査の故竹鼻三雄博士の資料寄贈さる

竹鼻三雄博士(元東大工学部教授)は船舶工学の専門化として、第五福竜丸の保存運動がスタートした一九六八年五月に、夢の島に

廃船として係留されていた福竜丸の船体の状態を最初に調査した方です。その時の新聞報道では、「竜骨が弱り船としての寿命はつきており、部分的な取替え補修と防腐剤の注入をすれば保存は十分可能」というものでした。

また、八三年には船首部分が折れ曲がり船室内の傷みもひどくなるという状態のもとで調査報告をおこない、八五年から六年かけての大規模な船体補修へと道をひらきました。

竹鼻博士は、八五年に亡くなられましたが、残された資料の中に福竜丸にかんする資料ファイルが見つかり、東大の環境海洋工学の研究室の金井誠さんが展示館に持参され寄贈くださいました。ファイルには、「はやぶさ丸」当時の船体の設計図面や最初に福竜丸の船体調査をしたさいの新聞報道、八三年の船体調査の報告文書などがふくまれています。

平和協会 第一五一回理事会ひらく

回理事会が二月五日に神田の学生会館でひらかれました。会は川崎会長の進行で、今年度の協会の事業、展示館管理運営の現況、ボランティアの会などの活動について報告され、次年度にむけて評議員の補充についての報告と意見交換、展示替えについての報告などがおこなわれ了承されました。また、二〇〇二年の3・1ピキニ記念集會を左記のとおり、三月九日におこなうことが確認されました。

2002年3・1ピキニ記念集會

- * 2002年3月9日(土) 14時-17時
- * 場所 日本青年館302号室
- * 講演 山本義彦氏 (静岡大学教授 / 焼津市史副編集委員長)
- * 演題 ピキニ事件と日本の経済 (仮題)
- * 参加費 500円

福竜丸から平和の大切さ学び...

— 来館者からのメッセージ、感想より —

第五福竜丸展示館の秋から冬にかけては小学生の社会化見学がいへん多く、今年も一〇一校が訪れました。

アフガニスタンでの報復戦争やイスラエル、パレスチナの事態などが連日報道されるなかで、子どもたちは第五福竜丸から、展示館からなにを感じ取っているでしょうか。寄せられた皆さんの感想文から紹介します。(一部略・編集部)

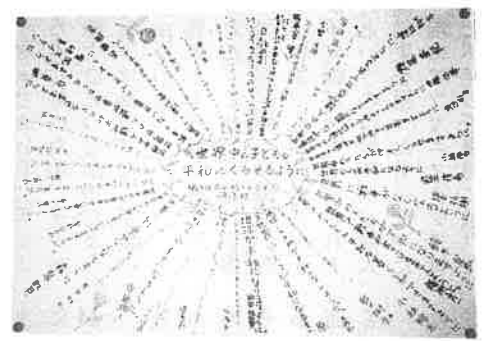
* 東京・小学三年女子 私は第五福竜丸のことは知りませんでした。福竜丸はてんじ館にあるのはにせ物だと思いました。でも本物だと言われてびっくりしました。説明をしてくれた人ありがとうございました。

* 東京・小学三年女子 展示館に初めて行きました。まぐろをとる船なのにこんなに大きい船だと思ってませんでした。はがきや作文がたくさんかざってあって、みんな船長さん(ママ)が死なないようにとお願いしていたんだなあと思いました。広い海、ほとんどのまぐろや水に「死のはい」がかかってしまつて、水ばく実験、原

子ばくだんの力はすごいなと思いました。人のほっぺのあたりが黒くなっている写真があつて、ああ、放射能がかかるとこんなになつてしまうんだあ、と思いました。外にまぐろづかという石ひがあつて、まぐろがうめであるのかなあと思いました。私は、福竜丸に実さいにさわつてみて、もうせんそうはなくそうといのりまし

焼津市・小学六年男子 青木先生(ボクンティアの会)は福竜丸のことをよく知つていて勉強になりました。福竜丸がアメリカの水ばくでひ害をうけたことを忘れてはいけいと思つていました。ほうしやのういあつて人はひふがやけどみたいになつたり、かみのけがぬけてしまつてかわいそうでした。だからかく実験とか戦争はぜったいにやつてはいけいと思つていました。福竜丸がすてられたとき、すててはいけい、ずつとつておこうといつたことに感動しました。

* 三島市・小学六年 水爆実験で亡くなつた人達のために戦争したくない 第五福竜丸だつてきつとそう思つてる 戦争したらまた放射線障害の人がでてくる そんなことしたら人が また 亡

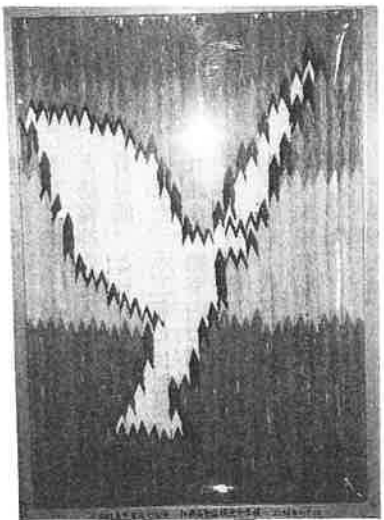


くなくなつてしまふ 人だけじゃない 魚 動物 生き物 全部が死んでしまふ 戦争つて なんのためにやるの 戦争やつても 平和にはならない 平和は 戦争なんてやんなくても つかむことが できるよ 戦争したくない

* 焼津市の小学六年生の引率の先生より 第五福竜丸について総合的な学習の時間に深めてい

初めてその存在にふれる子、さまざまな子のいるなかで説明いただき、ありがとうございます。一学期の調べ学習を進めていた子は、実物を見てびっくりしてました。本やインターネットで調べるよりもやはり本物は違ひます。初めてその存在を た子たちも、この船が焼津所属の船と知り驚いていました。そしてなによりもその場でお話を聞けたということが、この子どもたちの心に深く残つたことでしょう。青木先生の熱のこもつたお話しに、集中して聞き入つていた子どもたちの顔が今でも浮かびます。

ここで学習したことは各クラスのコース別発表会で深めていきます。事件については焼津とのかかわりをもとに、三学期の社会科でさらに深めたいと考えております。



中学美術観賞の教科書のマルグリット作「大家族」をモチーフに仕上げたみことな折り鶴作品(和歌山・伏虎中学)。

新展示パネルでできる — 漁船第五福竜丸と日本の漁業をテーマに —

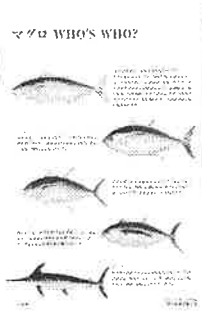
展示館二階に展示する新パネル「遠洋マグロ漁船第五福竜丸」、「日本の漁業と第五福竜丸」および「マグロのお話」の三枚が出来上がり設置されました。これは、遠洋漁船としての第五福竜丸をつうじて、戦後の日本の漁業の実情をたどるものです。また、日本が世界で一番マグロを消費していることから、マグロについても知り、その資源保護や海洋の環境についても思いめぐらせる内容になっています。

このパネルと合わせて、日本カツオマグロ連合会から提供された「延縄漁のイラストポスター」「マグロ延縄のつりばり実物」「カツオ一本釣りのつりばり実物」も展示し、船の甲板には展示館所蔵の「はえ縄漁具—幹縄、枝縄、ピン玉、ボンデン竹」を並べました。

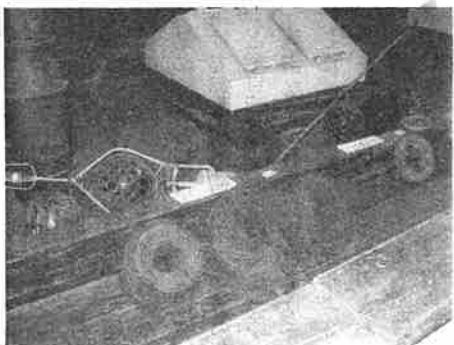
第五福竜丸の甲板や操縦室を見ることが出来る二階の通路とバルコニーには、これまで展示されていた大石又七さん製作の「漁船・第五福竜丸模型」と船の部位の名称を記した「イラスト」があります。これを合わせて、このスペースが遠洋マグロ漁船第五福竜丸を見て知るコーナーとなります。



戦後の漁業のパネル



マグロの話



甲板のはえ縄漁具